

国立民族学博物館の収蔵品 68

日本手話版「ももたろう」

日本語に方言があるように、日本手話にも方言がある。みんなの言語展示には、日本手話版「ももたろう」の九方言（二〇一二年から二〇一八年収録）が展示されている。

日本語の方言は、地域ごとに、音韻、文法、語彙、イントネーションなどの違いがみられるが、手話においても地域により同様の違いがある。手話の音韻には、手形・位置・手の形・手のひらの向きがあるといわれており、例えば「おじいさん」の表現に着目すると次のような違いがある。標準手話では、胸の前で親指を曲げ、歩いていくように軽く上下に移動させる。北海道では、標準手話とは手形と動きは同じだが、位置は額で表す。山口県では、指を伸ばした手のひらを額側に向けて、額のしわを表すかのように額の端から端に移動させた後、額の脇で親指を立てる。立てた親指は、「男」の意味を表し、額に置いた手の動きと合わせて「おじいさん」を意味する。「おばあさん」の表現では、親指ではなく小指を立てる。このように、九地域

の手話語りのうち、「おじいさん」「おばあさん」の表現は、男女を示すために使う指は全ての地域で同じだが、手の位置や動き、語の作りで異なる表現が見られる。

また、語りの始めにある「むかし、むかし」の表現を比較すると、語彙の違いがあることがわかる。日本手話では、話し手の後方が過去を、前方が未来を表す。「むかし」は、手のひらを後ろに向けて、肩の後方に手を動かすのが標準手話である。話者によって、動かし方が一回をゆっくりなのか、あるいは、二回、三回繰り返し動かすのか、両手を使うか、片手を使うのかが異なっている。これに対し、愛媛の手話では、親指、人差し指、中指で殿様のちょんまげを意味する手形を作り、この手形を頭の上に置き、頭の後方から前方へゆっくり二回移動させて「むかし、むかし」を表現する。さらに、手の動きだけではなく、目を細めて、眉にしわを寄せる顔の動きが伴うが、これは、程度がはなはだしいことを表す手話の文法と関係している。日本手話



「日本手話版ももたろう」の最初の画面。9方言から見たい方言を選択できる。



熊本編ももたろうの最初のシーン。右手を後方に動かし「むかしむかし」を表している。

には、感情表現を表す表情とは異なる顔の動きがあり、それが、手話の大切な言語要素の一つともなっている。

話者は二十代から七十代と幅があり、年齢による語りの速さが異なることに気づく。二十代の話者の語りはテンポよく早く、七十代の話者は、ゆっくりと語られている。

ももたろうの語りは、手話を知らない人にも理解してもらえるように、字幕付きで閲覧することができる。しかし、手話は文字で書かれたものをそのまま視覚化したものではない。手話を言語として独立してみてもらえるように、最初は字幕なしで手話そのものを見てもらい、二回目からは字幕を選ぶことができるように制作に工夫した。手話が、独自の文法をもつ自然発生した言語であることが、多くの閲覧者に伝わるよう、願いを込めて。

（相良啓子）